

島原での

坂本龍馬の足跡を巡る

昨今、NHK大河ドラマの影響などもあり、全国的に坂本龍馬ブームが到来しています。皆さんは、ここ島原の地にも坂本龍馬が来たことをご存知でしょうか。今回は、島原に残る坂本龍馬の足跡と坂本龍馬関連のイベントを紹介します。



長崎を目指して坂本龍馬と勝海舟が島原上陸

元治元年（1864年）、勝海舟とともに、坂本龍馬ら神戸海軍塾の門下生が、島原湊に降り立ち、城下本陣当中村家で休憩し、島原の城下町を眺めながら長崎への道を急ぎました。

長崎へ向かった理由

文久三年（1863年）、長州藩が関門海峡を通る外国船を攻撃した事件が起こりました。外国勢は四力国連合を作り、長州藩を攻撃し、困った幕府は、勝海舟に調停の役を命じました。その話し合いの場所が長崎で、神戸海軍塾の坂本龍馬ら門下生を同行させました。

どの道を通ったのか

島原に入った一行は、海沿いの島原街道北目道ではなく、少しでも距離が短い山沿いの千々石道を通ったと思われる。海舟日記にある「大石雑わり、小石、道路満ちて甚だ悪し。雲仙の獄出せしによるか、西洋に云うラアミ（溶岩）年を経しものならむ。」という記述が千々石道を表しているようです。

坂本龍馬・勝海舟上陸の地

元治元年（1864年）2月22日、一行は現在の津町付近から上陸しました。当時、この付近にあった「船番所」に立ち寄り長崎へと向かいました。龍馬の長崎における第一歩はまさに

2 龍馬上陸の地



4 移転した「城下本陣当中村家」屋敷門



5 龍馬らが休憩した「殿様井戸」



3 城下本陣「古町別当中村家」跡



1 龍馬入港の地



島原街道龍馬の道

